

Tao Thailand

Travel **SORA**
web magazine 2017.jul. vol.86

MAP
CLICK!

2日間のダイビングで、
ジンベエザメ祭りに
なってしまった!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

2017年のシーズンは、とんでもないことになってしまった。GWあたりFacebookを見ていると、タオ島でダイビングを楽しんでいるダイバーの投稿が、ジンベエザメばかり。「今日も何匹!」「何日間連続で見られた!」などなど。羨ましいなあとスマホを眺めていた。GW過ぎに私はタオ島の取材が入っていたが、そこまでは出現しないだろう……とどこかで思っていた。しかし、実際に行ってみると……。

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2017
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.



本当のことなんだから、
もう隠せない!

タイ・タオ島
Tao
Thailand
Travel

続々出現!

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島



違うポイントで、同時に何匹か現れたり、 同じポイントに3匹現れることもあったという……(苦笑)

タイ・タオ島
Tao
Thailand
Travel

今回の取材は短くて、ダイビングできる日が2日間しかなかった。本来なら、5日間ほど海取材をするのだが、今回は少し強行だった。全ダイブ本数が7ダイブで、そのうち6ダイブでジンベイザメと会えることができた。もちろんジンベイザメを狙ったポイントでの出会いもあったが、それ以外の、例えばシャークアイランドやヒンウォンピナクルなどでも会うことができた。タイの海は、西のアンドAMAN海のリチュエーロックなどでジンベイザメが高確率で目撃され、タオ島でも同じように目撃例は多数あった。しかし、ここまで色んなポイントで、ジンベエザメが現れるとは…。違うポイントで同時に何匹か現れたり、同じポイントに3匹現れることもあったという。こんな風にたくさん集まる理由はわからない、と現地ガイドさんが話してくれた。でも、彼らは、大きな口を開けて、プランクトンを捕食していることも多かった。きっとタオの人気ポイント周辺は、プランクトンも多く、彼らにとって最高の採餌場なのかもしれない。

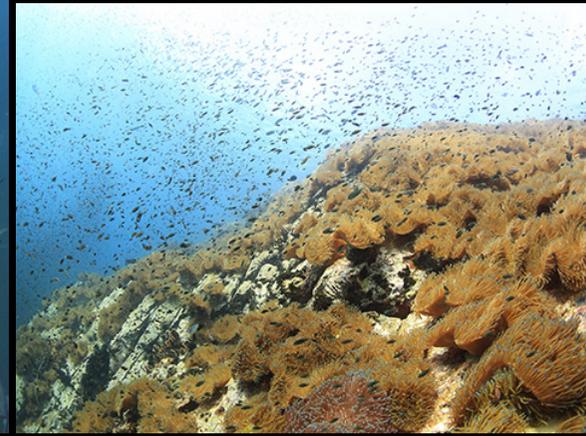


魚影の濃いポイントに、 ジンベエザメが現れると…

タイ・タオ島
Tao
Thailand
Travel

実際は、2017年1月からGW前までは、3日に1回以上のタイミングで、ジンベエザメが出現していたとのこと。それが、GW前から毎日出現するようになったという。まずは、3大大物ポイントのサウスウエストピナクル、チュンボンピナクル、セイルロックだ。それらのポイントでは、高確率でジンベエザメに会える。そして、この3大ポイントは、とても魚影が濃い。そこにジンベエザメが現れると、ジンベエザメの大きな体に他の小さな魚たちやギンガメアジなどまとわりつく。その様子がなんとも壮大で、世界中にジンベエザメと会えるポイントは多くあるが、他のお魚とのコンビネーションを考えると、タオ島はやはり特別なのかもかもしれない。一度、出現したジンベエザメは、まるでダイバーに挨拶をするかのように根の周囲を泳ぎ、少しすると青い海の先に消えていくが、気がつくと根に戻り、またダイバーに至福の時間を与えてくれる。今回、素敵だなと思ったのは、みんなジンベエザメを見慣れた感じがあって、目の前を泳いでも追いかけないし、慌てない。だからみんなでゆっくりジンベエザメと一緒に過ごすことができた。

タイ・タオ島
Tao
 Thailand
 Travel



サウスウエストピナクルで、ウケグチノホソミオナガノオキナハギ(長い)!!!!

サイリービーチからボートで40~50分先にある、タオ島の3大ビックポイントの一つ。メインの大きな岩を中心に、周囲に小さい岩が連立。20mの砂地にブラックコーラルが群生する。ヤノリボンスズメダイやクロリボンスズメダイ、イエローバンドフジュラーの幼魚などが根を覆い、とても華やかな印象。水底近くでは、シェベロンバラクーダの大群が舞うと、中

層を泳ぐオニアジとの珍しいコラボレーションを見せてくれる。マブタシマアジの群れも見どころの一つ。マクロの生き物も豊富で、アカオビハナダイ、ワヌケヤッコ、ベニツケサツキハゼ、ヒブサミノウミウシなど、アンカーラインのところで、長い和名を持つ珍しいウケグチノホソミオナガノオキナハギにも出会うことができた。

タイ・タオ島 Tao Thailand Travel!



チュンポンピナクルは、 タオ島らしい景観が見られる

チュンポンピナクルは、ビーチから30~40分、ボートで移動するタオ島を代表する大物ポイント。南北に細長い岩で、全長は100mほど。バラクーダ、アジヤツバメウオなどの魚群に巻かれたり、根の上がセンジュイソギンチャクとハナヒラクマノミ畑になっていて、タオ島らしい景観が見られる。このポイントを有名にしたのは、やはりジンベイザメ。スケールの大きなポイントだが、根のトップが13mなので、どこでジンベイザメが現れてもすぐにアクセスできるのも人気の秘訣。ジンベイザメが居着くことも多く、一度現れると、長時間一緒に泳ぐことができる。他に見られる魚は、テルメアジ、クロリボンスズメダイ、ヤノリボンスズメダイ、オレンジリーフゴビー、イエローバンドフージュラーなどが挙げられる。ここで現れたジンベイザメは、マブタシマアジをたくさん従えていた。



島の周りの水深の浅いポイントの中では、特に魚の種類が多いホワイトロック。砂地あり、岩場あり、棚の上のサンゴエリアあり、など環境が多様で、一つのポイントにそのような環境が集約されている。更にマクロの生き物も豊富で、ゴルゴニアンシュリンプ、メタリックシュリンプゴビー、ワヌケヤッコなどなどの気になるアイドル種が続々。フォト派にとってやはり見逃せないのが、イバラカンザシに乗るタテジマヘビギンポ。まずはガイドさんに教えてもらい、撮影。途中で降りてしまうので、少し待つ。するとまたまた乗ってくれるので、撮影。最初は横から、頑張って正面顔など。なかなか面白いゲームでもある。



White Rocks

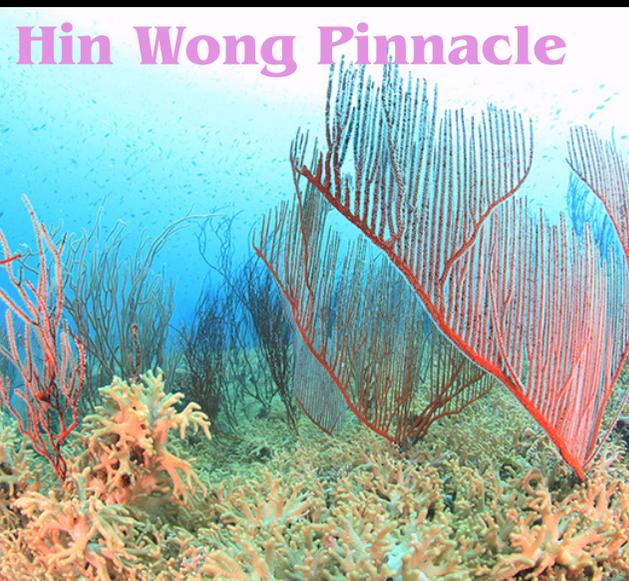


タイ・タオ島
Tao
 Thailand
 Travel

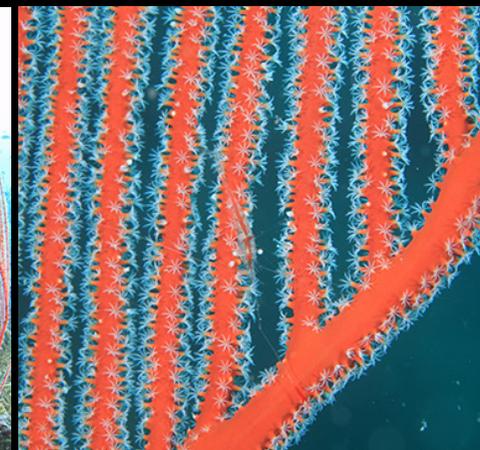


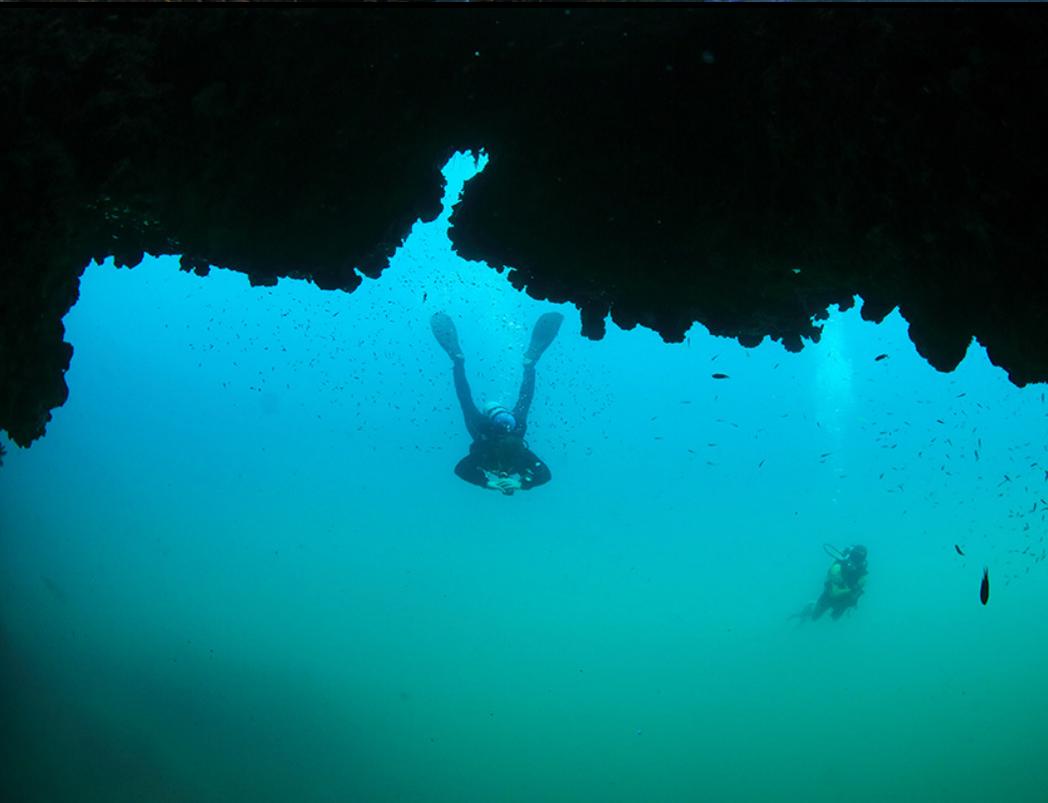
**イバラカンザシに乗るタテジマヘビギンポ！はホワイトロック！
 &ピンクのヒンウォンピナクル**

タオ島で一番カラフルなポイント。潮あたりの良い根で、色鮮やかなソフトコーラルが群生する。見所は、水深約20mの根を覆う、薄い紫色のソフトコーラル。見た目の印象とストロボを当てた時の印象が随分と変わるが、どちらもとても美しくワイドでもマクロでも撮影したい。形の面白いハーブコーラルにガラスハゼ、アカスジカクレエビがいるなどフォト派が喜ぶポイント間違いなし！



Hin Wong Pinnacle





セイルロックで夢でも見たことがなかった景色

セイルロックビーチから2時間先にあるシャム湾を代表する魚影 No.1ポイント。その年によって目玉の生き物が異なるようだが、今年、500匹を超えるツバメウオの大きな群れ。プリーフィングの時に、ツバメウオのことを聞いたが、あまり実感できず。しかし、エントリーしたら、とんでもない景色が広がっていた。これまでに見たこともない数のツバメウオが水面下に浮かんでいる。正直、ツバメウオの群れにそれほど興味はなかったけど、この群れは本当にやばい。手前に、他のお魚を入れて撮影できるほど周囲の魚影も濃い。このポイントでもジンベイザメももちろん見たけど、このツバメウオの群れもなかなかの主役。そして、根の周囲の魚影が濃いことは、もちろん間違いない。特に離れ根には、これまた驚かされた。ギンガメアジが群れ、その前にイエローバンドフュージャーの幼魚が群れているから、お魚まみれの何重層にもなっている。このポイントでも同じだけど、ジンベイザメが現れた時は、本当にテーマパークのような賑やかさになる。夢でも見たことがなかった景色に、ここでは会えたような気がした。

タイ・タオ島 Tao Thailand Travel



愛されるビックブルーチャバ

海から近いメイン通り沿いに立つビックブルーチャバ。オーナーの大村健さんの長年の夢だった形がそこにある。「みんなが自由に共有できる情報発信の場」そんな思いが大きな建物の中に詰まっている。ダイビングセンターとしては、かなり大きな規模で、ロギングなどができる大きな多目的エアコンルーム。外には広い庭に木々が茂り、ベンチシートとテーブルが並んでいる。海から帰って来たら、すぐに機材が洗えるようにと使い勝手の良い機材洗い場もある。2階にもレクチャールームなどを完備。お店の中央には、カウンターがあり、ビールなどの飲み物も注文できる。この場所にいろんな人が集まる。ダイバー、フォト派ダイバー、そしてアジアなどを旅して、ダイビングを始めた旅ダイバーも。いろんな人間がここに集まり、いろんな話をして、海に行き、そして海から帰って来る。若い旅ダイバーたちも集まるこのビックブルーチャバは、他のお店とは少し違った雰囲気がある。それがまた心地よい。



タイ・タオ島 Tao Thailand Travel



<タイ料理レストラン> オールシーズン

タイの東北地方のイサン料理が食べられる。コムヤーン（豚）、ガイヤーン（鳥）、カオニャオ（もち米）、ヤムウンセンなどの本格的なタイ料理が、お手頃価格で食べられる。お酒などのドリンクは持ち込み無料。



<イタリアンレストラン> ファランゴ

本格的なイタリアンが日本よりもお手頃価格で楽しむことができる。同じクオリティなら日本では倍の値段のはず。牛肉のカルパッチョや、前菜の盛り合わせ。窯で焼くピザ。パスタの種類も豊富で、ブルーチーズのパスタがおすすめ。